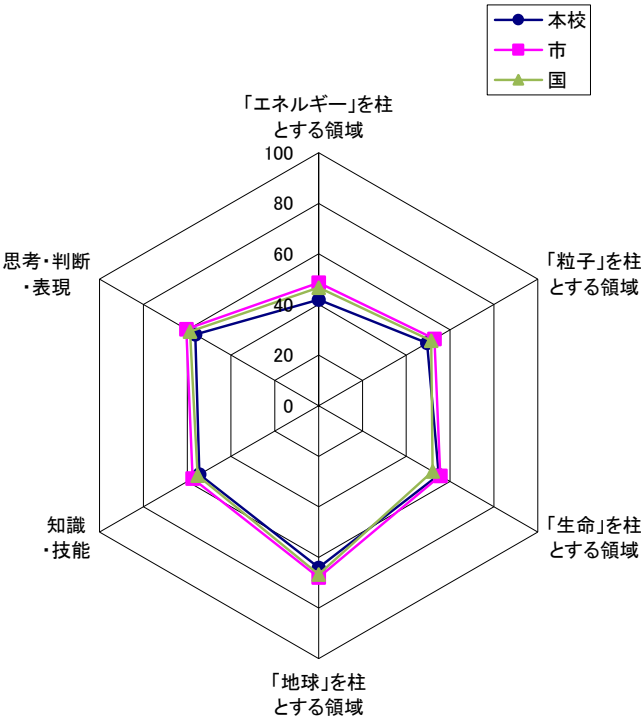


宇都宮市立桜小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	41.9	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	49.5	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	54.8	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	64.0	67.9	66.7
観点	知識・技能	54.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	56.3	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○電気の回路のつくり方について問う問題では、国の平均正答率を2.3ポイント上回った。 ●電磁石の強さとコイルの巻き数の関係を問う問題では、国の平均正答率を16.7ポイント下回った。	・記述式の問題に、日頃の学習から慣れておく。 ・実験で得た知識を文章でまとめて、理解できるように、日々の学習活動の中で指導する。 ・電気の回路のつくり方について、実物や動画などを活用して理解を深めるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○水の蒸発について問う問題では、国の平均正答率を10.0ポイント上回った。 ●水の結露について問う問題では、国の平均正答率を12.3ポイント下回った。	・水の温度による状態変化において、結露と蒸発の現象が関連づいていることについて、実験や動画などを活用して理解を深められるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、国の平均より高い。 ○顕微鏡の扱いについて問う問題では、国の平均正答率を6.0ポイント上回った。 ●発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかを問う問題では、国の平均正答率を7.2ポイント下回った。	・実験器具の扱いについては、今後も動画などの視覚支援を用いながら、正しい操作の仕方の理解を図れるようにする。 ・比較実験を行う際のまとめる場面では、色分けなどの視覚支援を取り入れたり、毎時間同じ表示を用いてパターンをとらえやすくしたりするなどして、理解が深まるよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○水のゆくえんについて問う問題では、国の平均正答率を3.6ポイント上回った。 ●土の粒の大きさと水のしみ込み方の関わりについて記述で回答する問題では、国の平均正答率を5.7ポイント下回った。	・身近な自然現象に目を向け、発見や探究を重ねていくよう、問いかけや助言をしていく。